

モノハ稀ナリ、春新葉生ズ、形横ニ廣クシテ鴨脚<sup>アヒル</sup>ノ如シ、雌雄アルコト集解ニ云リ、葉ノ末岐アル者ヲ雌トス、實ヲ結ブ、岐ナキ者ヲ雄トス、實ヲ結バズ、實ハ無患子ノ殼ヲ帶ル者ニ似タリ、熟スレバ内爛テ臭氣多シ、内ニ核アリ、色白シ、二稜三稜アリ、三稜ノ者ヲ雄トス、是ヲ三角銀杏ト云、烏白ノ附方ニ出ツ、五福全書ニ曰、三稜者有毒ト、又六七稜ナルモアリ、甚稀ナリ、大木ニ瘤ヲ生ジテ長ク下垂シテ、石鍾乳ノ如クナルアリ、極メテ長キモノハ丈餘ニ至ル、土州方言イチャウノチ、又唐山ニテハ銀杏木ヲ顔額ニ用テ甚雅ナリト、汝南圃史ニ見ヘタリ、

〔草木六部耕種法<sup>十九</sup>〕<sup>需實</sup>銀杏一名鴨脚子<sup>アウキヤクシ</sup>、壽ノ永キ木ニテ極テ大木アリ、幹直ク性堅クシテ、棟梁ノ良材ナリ、實亦菓子ト爲ベク、又煮テ羹ト爲スベシ、此木ニ牝牡ノ説アリテ、其核三角ナルヲ牝トシ、三角ナルヲ牡トス、其牡種ヲ植タルハ、實ヲ結コト無シト云フ、然レドモ我家ニテ此ヲ植ルニ

ハ、種子ノ牝牡ニ拘ルコト無シ、何トナレバ、栽テ其幹笛竹ノ大ニ至レバ、即引切テ良木ヲ接木スルヲ以ナリ、實ニ無用ノ辨トハ是ナリ、此ヲ植ル法ハ、十月能ク熟シテ大ナル實ヲ採リ集メテ、

其殼肉共ニ溝泥中ニ埋メ置キ、翌年春分後ニ取り出シ、肥地ニ一尺ノ間ニ一粒ヅク植エ、其苗長シタルヲ、翌年植地ニ移シ栽テ、笛竹ノ太ニ及ビタル時ニ切テ砧木ト爲シ、能ク實ヲ結ブ、銀杏樹ノ南枝ヲ採テ接木スベシ、能ク培養スルトキハ、七八年ノ中ニ必ズ實ヲ結ブ者ナリ、且此木ハ年

數ヲ經ルニ從ヒ極テ繁リ、大木ト成ルヲ以テ、其栽ル場處ヲ前方ヨリ能ク心得ベシ、

〔林政八書〕樹木播植方法、杉穂差様<sup>略</sup>○中

一いちちよう種子、八月より九月迄熟見合もぎ取、日に乾し、策にて打ち皮を去り、可成程淺く蒔入候、土深く埋め候へば、萌出少相成物に候、

附、皮は不取分候て、殼とも蒔入候ても不苦候、

〔倭訓栞<sup>中編二</sup>〕いちひ○中、笏を飛驒の位山の標にて造るといへり、よて一位にはせていへる

〔倭訓栞<sup>中編二</sup>〕いちひ○中、笏を飛驒の位山の標にて造るといへり、よて一位にはせていへる